

## シルバー人材センターの深い意義

シニア世代の方はみな知っていると思いますが、高齢者が元気で働き社会にも貢献していけることを趣旨とした団体にシルバー人材センターとの社団法人があります。全国で 1300 あまり。それぞれ、この 2 年くらいに間に公益社団法人への移行が進められているところです。

私も 6 年前から昭島市のセンターの会員として、駐輪場の管理を 5 年やり、現在は市報の配布や児童センターの管理などの仕事に就いています。一方で同センターの理事・広報部会長として会報の編集などにも携わっています。

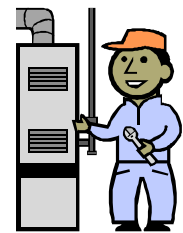
ついでには全国シルバー人材センターの会報 3 月号に、とても元気をくれるエッセイが載っていたので一部を紹介してみます。筆者は長野シルバー人材センター理事長で長野県の連合会会長でもある戸谷修一氏。タイトルは「今日も達者で」。記事は次の通りです。

——2 年前、「やあ、元気かい」と、突然、中学時代に机を並べた友人が訪れた。実に 50 年ぶりの再会。歳月の長さをしっかりと体に刻んでいた。北信濃の山村から首都圏へ就職し、無事定年を迎え U ターンした。決まった仕事から解放され悠々自適の暮らしに夢を抱いての故郷であった。しかし、その生活も 3 ヶ月ほど過ぎたころ、毎朝「今日一日をどう過ごそう」と思い悩むようになった、という。

話を聞き、シルバー人材センターについて説明。彼は、すっかり共鳴し入会。現在は週 3 日ほどホームセンターで就業し市民の方々といい出会いの日々を送っている。

(中略)

40 年、50 年とひたすら走り続けた生活から直ちに転換するのは大変なことである。家庭に軟着陸、地域へのデビューを仲立ちし、健康を維持するなどシルバー人材センターの多くの効用にあらためて深く思いを巡らせている。



さて、長野県人は一人当たりの老人医療費は全国最低である。高齢者就業率は全国 1 位、男性の平均寿命もトップ。そこには、やはり働くことに要因があると思う。先年、全シ協で発表された調査結果でも、就業した会員の医療費は一般高齢者のそれに比べて大きく下回っていたことからもうかがい知れる。

(以下略)

戸谷氏が指摘しているように、高齢者が元気で生きていく秘訣は「働く」ことだと思います。年齢に合った仕事内容と時間で、社会の役に立っているという生きがいがあるのです。ここにシルバー人材センターの存在意義があるわけです。

自分も生まれは信州なので、ぜひその効用にあやかりたいところですが、実は 6 年前にうつで体調を崩し人生のどん底を経験しました。ありがたいことに周囲の支えと祈りで乗り越えることができましたが、回復後、すべての仕事の道が閉ざされていたときに受け入れてくれたのがセンターだったのです。その意味では、センターに恩義のようなものを感じて、現在は理事としての責務も引き受けお手伝いをしているところです。



高齢化社会の到来により、いかに健康管理をし長寿をどう充実させていくかが大きな課題になっています。もちろん、国の政策・対応も大切です。でも、つまるところは本人の生き方にかかってきます。できれば世話になるよりもお世話をする側になりたい——これは誰もが抱く願いでしょう。その生き方は即、日本の再生と発展につながっていきます。高齢者が健康で社会にも貢献できる重要な場の一つがシルバー人材センターなのです。